

第1章 はじめに

1 研究主題

L Dを含む学習困難な児童生徒の指導方法 - 事例研究のまとめ -

2 研究目的

個に応じた指導を具体的に進めるにあたっては、児童生徒の学習困難の状態・発達段階・特性などに応じた適切な援助・指導が不可欠です。本研究では、昨年度の実態調査を踏まえ、その援助・指導方法の一層の工夫・改善のため事例研究を行うことで、各学校の教育活動に役立てることを目的としました。

3 研究方法

- (1) 事例研究のため協力校を選定依頼する。
- (2) 対象児童は実態調査で抽出した児童、または研究協力校で抽出した児童とする。
- (3) L Dを含む学習困難な児童の援助・指導方法を例示するため、研究協力校会議での検討とL Dに関する先行研究の成果を踏まえ、事例分析をする。
- (4) 援助・指導の内容と方法を見いだす視点及び留意事項を考察する。

4 本書の構成

この教育資料は、指導方法に関する事例研究のまとめです。本書を手にとられる教職員が、児童生徒への援助をできるだけ具体的に考えるための指導事例集としての体裁を重視し、第2章以下については、次のような構成にしました。

第2章 援助・指導事例

第2章は、昨年度の実態調査と、今年度の研究協力校を交えて実施した事例研究から浮かび上がってきたL Dを含む学習困難な児童の援助・指導事例集としました。

1事例を、見開き2ページで簡潔にまとめました。事例の標題は、担任する学級や担当する授業などで、「この子はL Dではないか」または「何らかの個別の配慮が必要ではないか」と思われる児童が示しがちな状態像のうち、特徴的なもので表しています。

事例の各項目については、下記の観点で整理しました。

学習・行動上の特徴

担任の目に映った児童の様子は、主なものに絞り、L Dを含む学習困難な児童の状態像をイメージしやすくする。

特徴の考察

学習・行動上の特徴を生育歴や諸検査結果の解釈も踏まえて分析し、援助・指導の方針の根拠となる児童の特徴的な実態を示す。

援助・指導の方針

研究協力校での実践における方針を基にして、特徴の考察を踏まえ、児童の学習困難に対応する方針を示す。

援助・指導例

研究協力校からの報告のうち、LDへの対応を生かした実践を中心にする。ねらい及び援助・指導の内容を、該当児童の主な課題に対応したものに絞り、多様な方法を簡潔に表す。

指導後の変化及び考察

学習困難の改善と残る課題については、LDへの対応を生かす指導方法の有効性とその活用の必要性を示すことに留意する。

すべての状態像を網羅することはできていませんが、心当たりの児童生徒とよく似た状態像を示す事例が読みとれば、指導の方法やヒントも得られるのではないかと考えます。

第3章 考察

「LDではないか」または「何らかの配慮が必要ではないか」と思われる児童生徒への援助については、「一斉指導での配慮」の段階から、「担任などの判断に基づく個別指導」さらに「心理検査など諸検査を踏まえた(通級による指導の活用も含む)個別指導」に至るまで、いずれも方針と内容を備えた計画的な援助が必要です。

第3章は、いずれの段階の援助であっても、援助の計画を組み立てる際に必要な基本的視点及び留意事項を事例や先行研究に学び、その考察から見いだしまとめたものです。

なお、中学校・高等学校の生徒に関することについては、調査研究及び事例研究が実施できていませんので、先行研究から紹介できる内容にとどめていますが、生徒の課題の背景を知る上で参考になるのではないかと考えます。

第4章 研究の成果と課題

資料

1 事例に関するその他の資料

児童の生育歴、心理検査の結果とその解釈などに関する主なデータです。

2 キーワード及び用語の解説

本研究のキーワードとなる語句及びLDや心理検査の結果とその解釈に関連する主な用語について、初出のページでその語の右肩に 数字を付け、その順に概括的な説明をしています。